

平成30年色染物質会 京都洛東の紅葉散策

11月29日(木)、好天に恵まれ、松岡(S35)、高木(S47)、小林(同)、角野(同)、田村(同)、犬伏(S48)の健脚壮年? 6名が紅葉真盛りの洛東寺院の庭園を散策しました。

銀閣寺はさすがに拝観者が多かったものの、手入れの行き届いた庭は美しく、高台からは秋空のもと、国宝の楼閣、吉田山、京都市街が望まれ、こちらだけでも心地良い1時間余りの散策となりました。



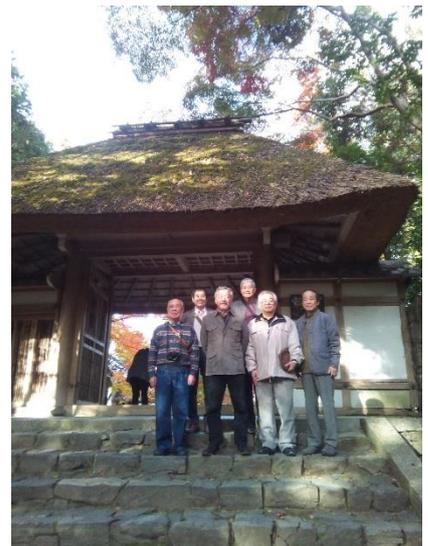
銀閣寺から南行300m、法然院到着。

尋ねる人は僅かで、参道を登りきると行く手に瀟洒な茅葺の山門が現われ、紅葉を背にしたその美しい姿かたちに心洗われる思いでした。

法然院から南行300m、

安楽寺到着。こちらでは住職が松虫鈴虫姫の悲話(当会からの案内MAILに記載)を語り、本堂に安置されている両姫の清らかな美しい坐像に手を合わせました。

前列 松岡、田村、小林、角野、後列 高木、犬伏





すぐ隣の靈鑑寺の庭園も、樹齢350年を超えるタカオカエデをはじめ紅葉が美しく高台を彩り、ここは歴代の皇女が入寺したことから「谷の御所」とも呼ばれ、皇女が起居した書院には狩野永徳、元信の絢爛な花鳥画、丸山応挙の幽玄な山水の墨絵—いずれも複製ではない—の襖を間近に見ることができました。

ここまで来るとさすが健脚の諸兄もいささかお疲れで、真如堂への登り道は何とか頑張ったものの、境内に着くや夕日に映える一面の紅葉の下で石段に腰を下ろして、1万5千歩とよく歩いたものだなあと暫時休息の時を過ごしました。



タクシーにて平安ホテル着、ここでの植治の手により改築され、鞍馬石や加茂川石、白川石などが要所に使われた池泉を回遊して、秋の洛東散策を締めくくりました。

ホテル内の「帆船」での和食膳も美味で、各々しっかりと盃を重ね、ここでも2時間余りを歓談、和やかな京の晩秋を過ごすことが出来ました。

(文:松岡謙一郎 S35年、写真:角野幹夫 S47年)